

# 鴻巣箕田の古墳・平安ロマン！

小冊子第13号

縄文時代(紀元前1万4千  
年前～2500年頃)

弥生時代(紀元400年～  
300年)

古墳時代(紀元300年～  
600年)

飛鳥時代(紀元592～710  
年)

平安時代(紀元794～  
1185年)

鎌倉時代(紀元1185～  
1333年)

室町時代(紀元1333～  
1573年)

安土桃山時代(1573～  
1603年)

江戸時代(1603～1868年)

明治時代(1868～1912年)



地域ロマンが好きな！  
中小企業診断士 岩間 文雄

Google map  
国交省ハザードマップ  
神社ホームページ  
鴻巣市ホームページ等

# 箕田の地形と神社・古墳 (大宮台地の北端)

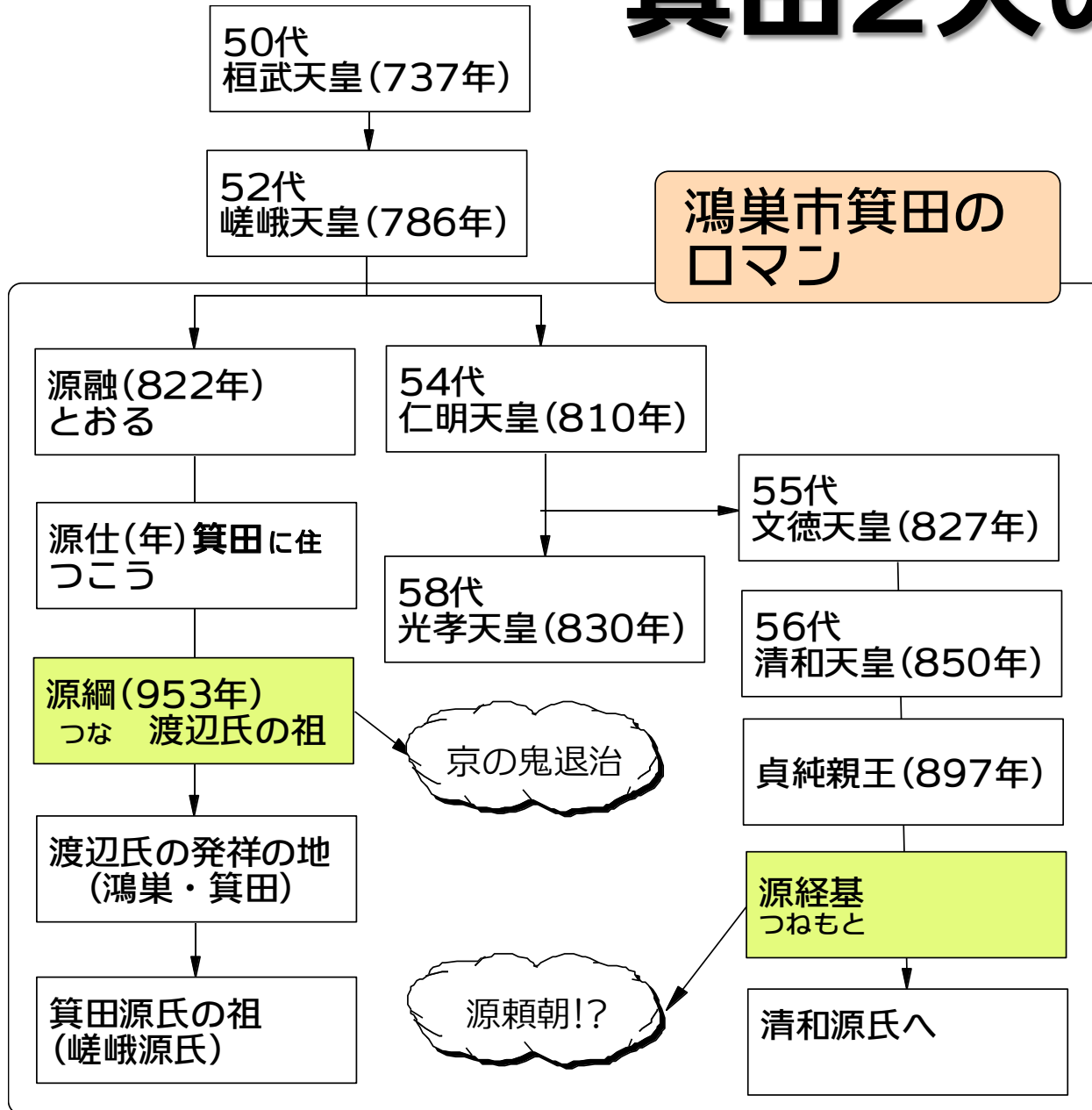


国交省・地形分類  
ハザードマップ



# 箕田2人の武士

○源 経基  
(894年?)  
○渡辺 綱  
(953年)



# 2人の武士の箕田ロマン

ツネモト

## ○清和源氏の祖：源経基・・・源義経、源頼朝

清和源氏（せいわけんじ）は、日本の武士階級の一族で、平安時代中期から鎌倉時代にかけて活躍しました。

彼らは源氏一派であり、清和天皇を祖としています。源氏は天皇家の血を引く武士の家系であり、清和源氏はその中でも特に重要な家系の一つです。清和源氏の中で有名なのは、源義家やその子孫たちで、彼らは後に幕府の成立に大きな影響を与えました。

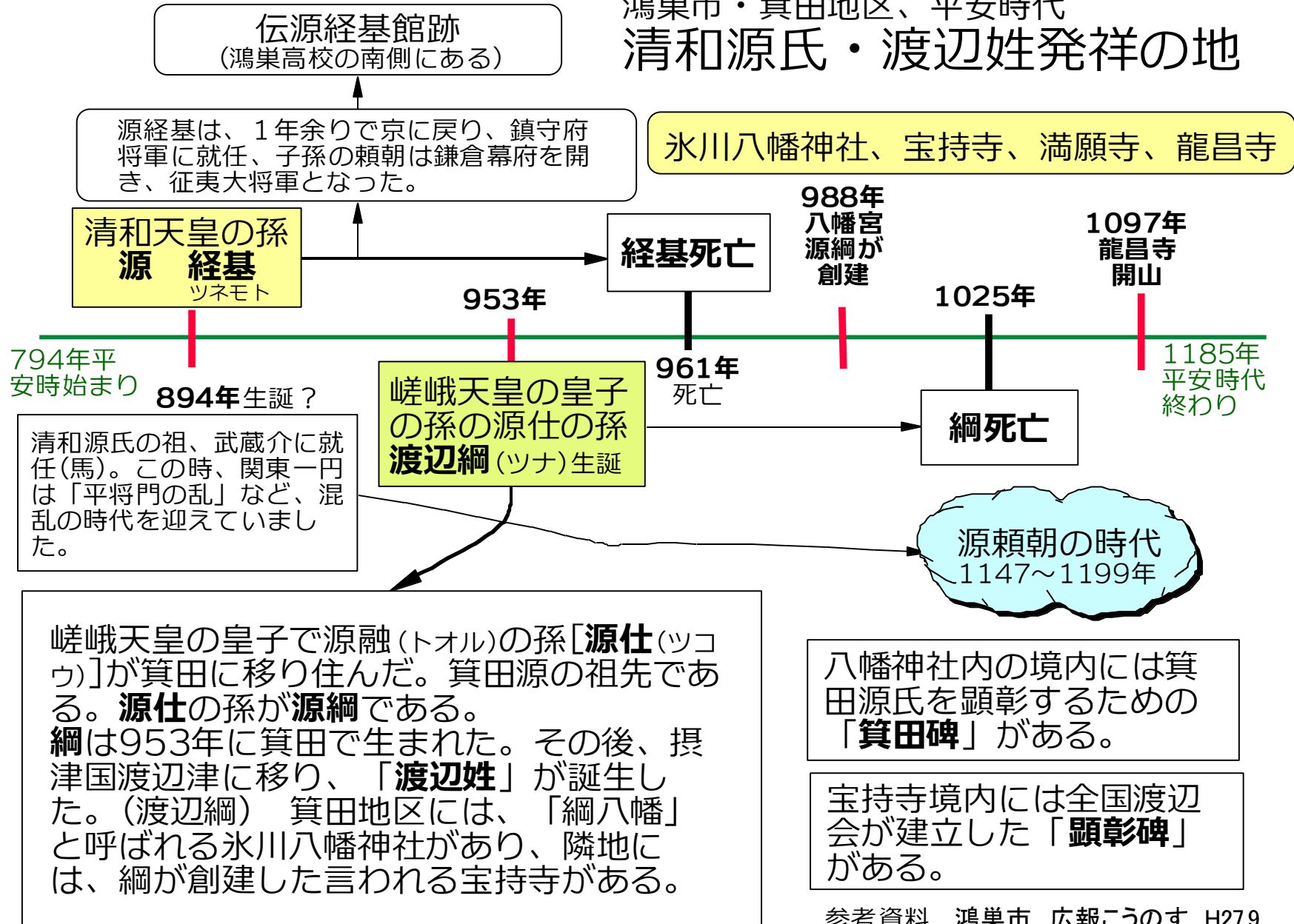
ツナ

## ○渡辺姓発祥の地：曾我天皇の皇子の孫・渡辺綱

渡辺綱（わたなべのつな）は、日本の伝説や民話に登場する武士で、特に平安時代の英雄として知られています。彼は「百鬼夜行」や「源氏物語」などの物語に登場します。

その一つ、彼が夜道で鬼に遭遇し、勇敢に立ち向かい、鬼の腕を切り落としますが、その後、鬼は老婆に化けて綱の屋敷に取り返しにきます。また、彼は渡辺家の祖先とされ、後の武士や戦国時代の武将たちにも影響を与えた人物とされています。

# 鴻巣市・箕田地区、平安時代 清和源氏・渡辺姓発祥の地





歴史人⑥

源 経基

源経基は、平安時代に清和天皇の孫として生まれました。「源」の姓を賜って皇族を離れた清和源氏の祖になる人物で、<sup>むさしのすけ</sup>※6武蔵介に就任しました。この時代、関東一円は「平将門の乱」など混乱の時代を迎えていました。経基は一年余りで京に戻り、立場は激しく上下しますが、最終的には<sup>ちんじゅふ</sup>※7鎮守府将軍に就任、子孫の頼朝は鎌倉幕府を開き<sup>せいいたいしょうぐん</sup>※8征夷大將軍となりました。

関東で一年余りを過ごした館跡と伝えられているのが、鴻巣高校の南側にある通称「城山」と呼ばれる埼玉県指定史跡「伝源経基館跡」です。高さ約7mの小山で、三方に<sup>どるい</sup>※9土塁や<sup>からぼり</sup>※10空堀を確認することができます。



❖ 史跡⑥ 伝源経基館跡  
(所在地=大間、交通=鴻巣駅西口から徒歩約15分)

源 経基は、平安時代中期の皇族・武将。経基流清和源氏の初代。『保元物語』によれば、父は清和天皇の第6皇子・貞純親王で、母は右大臣・源能有の娘。皇族に籍していたとき「六孫王」と名乗ったとされるが、当時の文献には見られない。居館は六宮とも八条御所ともいう。

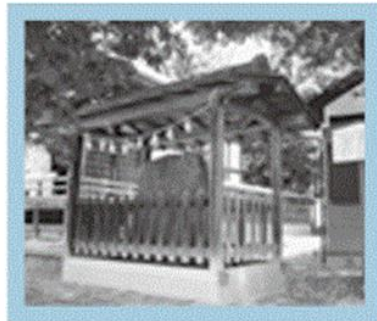


## 歴史人⑦

# 渡辺

# 綱

平安時代、嵯峨天皇の皇子である源融<sup>みなもとのとある</sup>の孫、源仕<sup>みなもとのつこう</sup>が鴻巣市箕田に移り住みました。平安時代の武士の系統である箕田源氏の祖です。そして源仕の孫が源綱です。綱は953年に箕田で生まれたと伝えられています。後に摂津国渡辺津<sup>せつこくわたなべのつ</sup>(現在の大阪市)に移り、「渡辺綱」と名乗りました。日本で初めての「渡辺姓」の誕生です。歌舞伎や浪曲・講談の演目にもなっている綱の多くの武勇伝のうち、鬼退治の話は特に有名で、全国の渡辺さんの家には鬼が近寄らないとされ、豆まきを行わない家も多いそうです。箕田地区には、通称「綱八幡」と呼ばれる氷川八幡神社<sup>ひかわはちまん</sup>、隣地には綱が創建したと伝えられている宝持寺<sup>ほうじじ</sup>があります。八幡神社の境内には箕田源氏<sup>けんしょう</sup>を\*11顕彰するため江戸時代に造られた「箕田碑」、宝持寺の境内には「全国渡辺会」が建立した顕彰碑があります。



❦ 史跡⑦ 氷川八幡神社・宝持寺(写真=箕田碑)  
(所在地=箕田2041・2034、交通=北鴻巣駅西口からコミュニティバス「フラワー号」「箕田郵便局」バス停下車)

渡辺綱(わたなべのつな<sup>[注2]</sup>)は、平安時代中期の武将。嵯峨源氏の源融の子孫で、正式な名のりは源綱(みなもとのつな)。通称は渡辺源次。頼光四天王の筆頭として知られる。渡辺氏の祖。また、「三田綱町(港区三田2丁目にあった町名)」の由来としても知られる。

源融は嵯峨天皇の第十二皇子。平安時代初期から前期にかけての貴族。嵯峨源氏融流初代。河原院、河原大臣と呼ばれた。  
生まれ：西暦822年

# 箕田地区の神社



- ① 氷川八幡神社  
平安時代
- ② 宝持寺  
平安時代
- ③ 龍昌寺  
平安時代
- ④ 満願寺  
鎌倉時代以前



# ①氷川八幡神社

鴻巣市箕田2041



渡辺綱（源綱）988年八幡宮を勧請して創建、渡辺綱は「松浦系図」によれば「武州箕田」の生まれとされています。

氷川八幡神社の北側には渡辺綱の祖父箕田武蔵守源仕以来の館があったといい、また鴻巣市八幡田は、氷川八幡神社の神田だったといえます。1759年建立の箕田碑。

ここ箕田の地は嵯峨源氏の流れをくむ箕田源氏発祥の地であり、源仕・源宛・渡辺綱の三代がこの地を拠点として活動を展開したと伝えられる。

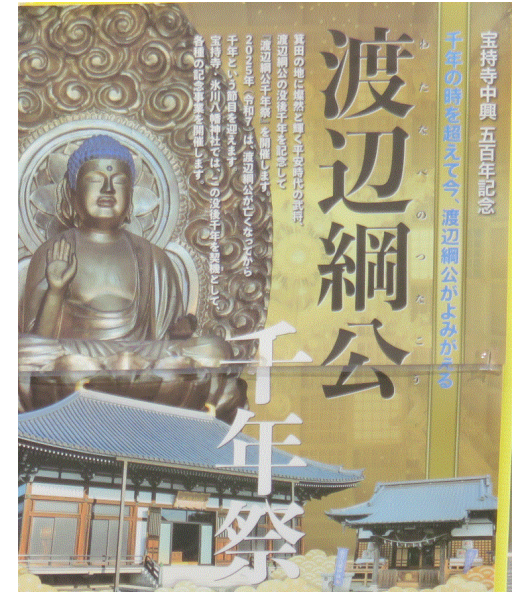
渡辺綱は「松浦系図」によれば「武州箕田」の生まれとされ、源頼光の四天王の一人として勇名をかせ、主君の頼光に付き従って酒呑童子を退治したという説話や、平安京内の一条戻橋で鬼女に襲われたが、逆にその脱を切り落としたという説話は有名である。



## ②宝持寺

鴻巣市箕田2034

宝持寺は渡辺綱が父並びに祖父母の菩提のために開基したと伝えられている。 本山 永平寺、總持寺



宝持寺は、今より約一千年前に渡辺綱が、祖父（箕田源氏の祖源仕）父（源宛）の菩提を弔う為に建立したと伝えられています。渡辺綱は源頼光に仕えた四天王随一と云われ、大江山の酒吞童子退治や京の一条戻橋では、付近に出没する鬼婆の腕を切り落とした事で有名な武将で、渡辺氏を名乗り嵯峨源氏一統の総領となりその名を残した人物です。

その後、東松山市永福寺の第二代住職壑芸玄巨大和尚により永正年間（1504-20年）に曹洞宗寺院として中興、慶安年間（1648-1651）には江戸幕府より寺領5石の御朱印状を拝領しました。平成15年に本堂を一新しています。

# ③龍昌寺

鴻巣市箕田2096

光範僧都が1097年に開山



真言宗豊山派寺院の龍昌寺は、自在山龍珠院と号し、江戸時代までは**箕田龍珠院**と通称していました。光範僧都が1097年に開山したと伝えられ古くより近郷における新義真言宗の中心的な寺院として栄え、1591年には満願寺と共に寺領5石の御朱印状を拝領、末寺三十六ヶ寺を擁していたといえます。

往古は箕田龍珠院と称されていましたが、江戸期より龍昌寺を通称とするようになりました。

龍昌寺は光範僧都が1097年に開山したと伝えられ、古くより近郷における新義真言宗の中心的な寺院として栄え、1591年には寺領5石の御朱印状を拝領、

末寺三十六ヶ寺を擁していたといえます。往古は箕田龍珠院と称されていましたが、江戸期より龍昌寺を通称とするようになりました。

# ④満願寺

埼玉県鴻巣市箕田1345



満願寺の創建年代は不詳ですが、清和源氏の初代源経基が創建したとも源頼義が奥州征伐の際に創建したとも、源頼義の家臣若林某が住んでいた地ともいい、鎌倉時代以前からの言い伝えが残る古刹です。往古は供僧も多く、多くの僧坊・末寺を擁した大寺であったといい、天正19年（1591）には、寺領5石の御朱印状を拝領しています。



境内にはシダレザクラ、サトザクラのほか、仙台シダレザクラやツバキなどの花木がたくさん植えられ、花の寺らしい雰囲気にも包まれている。そのなかで最大の見ものは本堂の左裏手にあるシダレザクラの古木。樹齢は600年くらいと推定されており、埼玉県内では有数の名木だが、案外知られていない。このサクラは開花が非常に早く、例年3月末に咲き始め、4月初めには満開を迎えてしまうので、県内では「春を告げる桜」といってよい。東国花の寺ホームページより



# 箕田古墳群とは

箕田古墳群は、大宮台地の北端部、通称箕田台地と呼ばれる台地上にあります。古墳群は、標高16～18mの地点に。幅600m、長さ1000mの広い範囲にめぐって散在している。現在は7基が存在している。宮前支群、富士山支群、龍泉寺支群、稲荷腰支群、追分支群の5つに分けられる

鴻巣市では、生出塚古墳群と並んで多くの古墳が密集した地域である築造時期は、6世紀初頭から7世紀に中葉にいたる150年間に亘って築造された。

(鴻巣市教育委員会)



- ①箕田古墳2号 見学自由
- ②箕田古墳4号 個人宅
- ③箕田古墳5号 道路より
- ④箕田古墳6号 道路より
- ⑤箕田古墳8号 道路より
- ⑥箕田古墳7号 個人宅?
- ⑦箕田古墳9号 宮登神社内

# ①箕田地区古墳2号



直径 27m  
高さ 2.7m  
円墳  
墳上に氷川神社  
保存状態良好  
鴻巣市教育委員会



すぐ近くに満願寺があります



## ②箕田地区古墳4号

(個人の庭内)



標高 約18m

長径 16m

高さ 1.7m

円墳

古墳時代から7世紀と推定

保存状態良好

鴻巣市教育委員会



# ③箕田地区の古墳5号



標高 約32m

長径

高さ

円墳

浅間神社

鴻巣市教育委員会





# ④ 箕田地区の古墳6号 (個人宅地)



長径 15m  
高さ 2m  
円墳

鴻巣市教育委員会



## ⑤ 箕田地区の古墳8号 (住宅地の建物に囲まれている)



- ・墳形: 円墳
- ・規模: 直径17m × 3m
- ・周濠: 有り
- ・出土品: 埴輪片
- ・築造年代: 6世紀代
- ・史跡の指定: 市指定

## ⑥ 箕田地区の古墳7号



標高 18m(台地から沖積層の  
斜面にある)

長径 10m

高さ 2m

小円墳

浅間神社

鴻巣市教育委員会



# ⑦箕田地区の古墳9号(宮登古墳)



標高 大宮台地の西側縁辺部  
長径 25m  
高さ 1.9m  
円墳  
宮登神社

鴻巣市教育委員会



文化財を大切にしましょう

令和三年三月

鴻巣市教育委員会

参考：昭和三十四年（一九五九）

宮登古墳群は、荒川に面する大宮台地の西側縁辺部に位置しており、宮登古墳はそのうちの一基である。墳丘の保存状態は比較的良好で、直径二十五m、高さ一・九m程の円墳である。昭和三十四年に埋葬部の発掘調査が行われており、それによると主体部は、角閃石安山岩を使用した胴張り型横穴式石室で、玄室の長さは二・九m、奥壁幅一・三m、高さ一・六五mであった。玄室から、須恵器甕・鉄鎌・水晶製の切子玉・管玉・丸玉などが出土しており、これらの遺物から七世紀の前半〜中頃に築かれた古墳と考えられる。また、埴輪類は認められておらず、埴輪樹立の風習が行われなくなった後の築造であろう。

なお、石室に使われた角閃石安山岩は、群馬県榛名山二ツ岳の爆発によりできた岩石で、利根川流域に分布する。本墳を作った人々は利根川からわざわざこの岩石を運んだのである。

宮登古墳（箕田九号墳）

鴻巣市指定史跡

昭和四十五年三月十日指定

# 終わり



埼玉県中小企業診断士協会  
在籍30年表彰

2023.10

中小企業診断士 岩間 文雄

090-2637-1164

株式会社ビーアイシー 会長

保険代理業、行政書士事務所、中小企業診断士事務所

所在地 桶川市上日出谷1269-92

電話 048-787-4012

年代、その他間違いがありましたらご容赦ください。